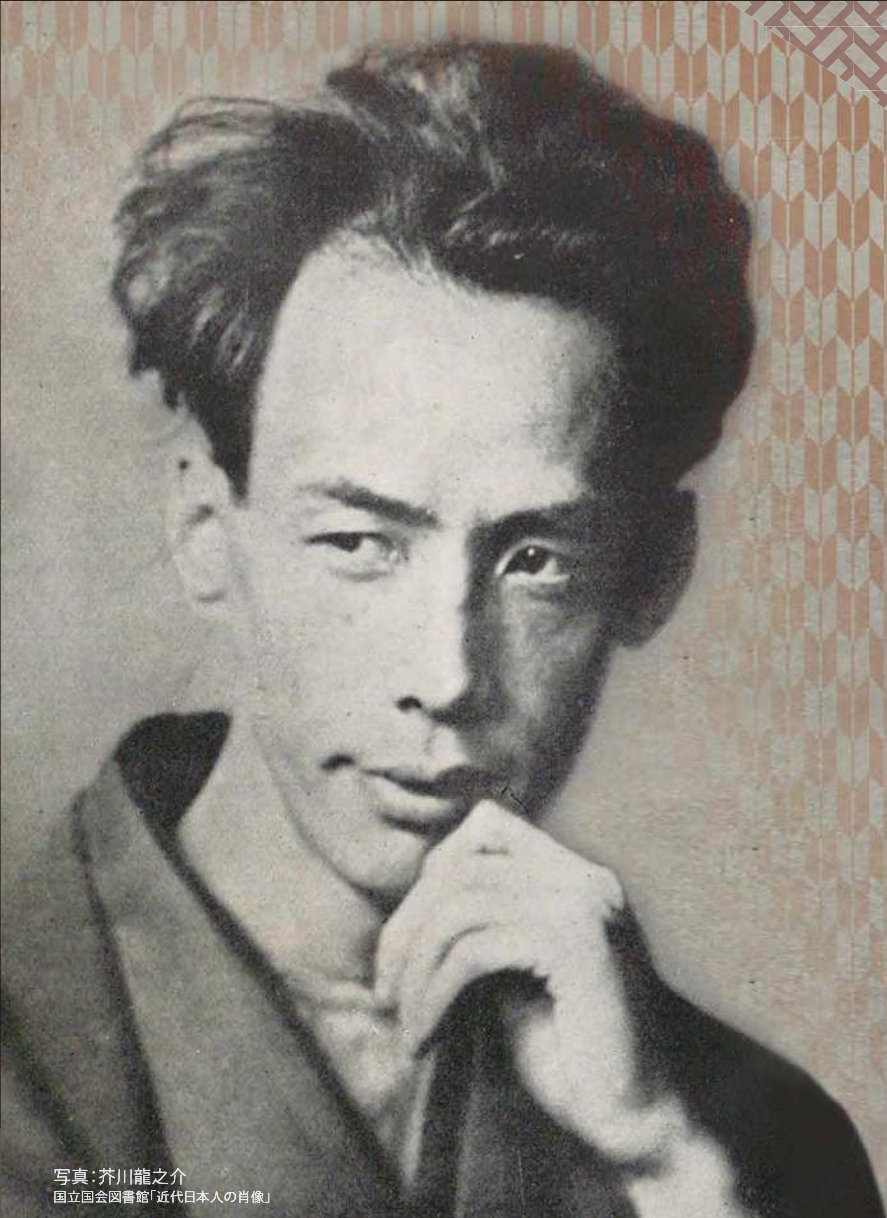




写真：芥川龍之介
国立国会図書館「近代日本人の肖像」

国内初 芥川龍之介 顕彰施設をつくりたい

(仮称) 芥川龍之介記念館 クラウドファンディング 実施中

数々の名作を生み出した「書斎」の再現など、
芥川の生きた時代を「体感(feel)」できる施設を
一緒につくりませんか？



◀ 詳しくはこちらのコードを
ご覧ください。

北区ホームページ



City of Kita

東京都北区



記念館 完成予想図

寄附のお申し出・お問合せ先
東京都北区地域振興部文化施策推進課
〒114-8503 東京都北区王子1-11-1

TEL 03-5390-0093
FAX 03-5390-0097

東京都北区では、令和9年度の(仮称)芥川龍之介記念館開館を目指しています。記念館では、芥川が数々の名作を生み出した書斎を筆記具や文机、蔵書など、現存する資料を基に可能な限り忠実に再現する予定です。来館者は再現された書斎に立ち入ることができ、「体感(feel)」して楽しめるようにします。芥川が暮らした場所に開館する記念館に、みなさまのご支援、ご協力をお願いいたします!

～ 北区田端と芥川龍之介 ～

大正3年、東京帝国大学に通う学生であった芥川は、両親とともに田端435番地(現1-20)に新築転入した。同5年、「鼻」が夏目漱石に激賞され、卒業後は「芋粥」などを文芸誌に発表し新進作家として文壇に登場。その後、芥川は教員生活と並行し新聞紙上で文筆活動にも精を出し、鎌倉、横須賀などにしばらく居住したが、同8年、筆一本で立つことを決意し再び田端へと戻り創作に邁進する。名声が高まるにつれ書斎には訪問客が増え、近くに暮らしていた室生犀星、久保田万太郎らの文士、小杉放庵、香取秀真らの芸術家たちとも行き来を重ねるようになる。田端時代の交友関係は「田端人」「田端日記」「東京田端」などの作品で描かれている。

人好きのする下町気質を存分に発揮し、芸術の分野や年齢にとらわれることなく交際を求め、田端文士芸術家の中心となった芥川は田端の「王様」と形容される存在となった。

しかし昭和2年7月24日、「唯ほんやりした不安」という言葉を遺して自ら命を絶った。忌日は「河童忌」と呼ばれる。



書斎を再現予定(写真は田端文士村記念館にある復元模型の書斎部分)

寄附の方法

クラウドファンディング

① キャッシュレス決済でインターネットから

ふるさと納税サイト「さとふる」からのご寄附は右記の北区ホームページをご覧ください。



北区ホームページ

② 納付書を使って金融機関から

右記申込フォームからお申込みください。受付後、納付書を送付しますので、金融機関からご寄附いただけます。



申込フォーム

寄附金控除が受けられます!

ご寄附は「ふるさと納税」として取り扱われ、確定申告をすると、寄附額のうち、2,000円を超える部分について、一定の限度額まで税金の控除が受けられます。

確定申告の必要のない給与所得者等で、一定の要件を満たした場合は、申告しなくても控除が受けられる「ワンストップ特例制度」があります。

※税に関する質問は、お住いの住所を管轄する税務署や関係機関にお問合せください。

感謝の気持ちとして、寄附金額1万円以上の方にはお礼状をお送りいたします。なお、5万円以上ご寄附いただいた方のお名前は、開館まではホームページ内に掲載、開館後は、記念館に銘板を設置いたします。(原則3年間)



返礼品の例



一筆箋・手ぬぐいセット

芥川龍之介愛用のネクタイをモチーフにした一筆箋と芥川龍之介ゆかりの品がデザインされた手ぬぐいのセット



田端ひととき散歩ご招待



田端ひととき散歩(講義の部)

※当該寄附金は地方自治法第96条第1項第9号に定める「負担付寄附」としてお受けするものではありません。「負担付寄附」ではなく、「用途を指定した寄附」としてお受けするものであることをご了承ください。
※北区民の方からのご寄附につきましては、返礼品の送付を差し控えてさせていただきます。